

オランダのまちづくり手法
トランジション・マネジメントで
持続可能な 2050 年の浦和美園を考える

さいたま市は
東京 2020 年大会
オランダ王国の
ホストタウンです！

Misono 2050

第 2 回ワークショップ会合参加者募集

～ オランダ・ロッテルダムからダーク・ローバック教授をお招きして開催します～

地球温暖化や自動運転・人工知能の導入など、わたしたちの日常を取り巻く環境は大きく変化しています。美園が 100 年後も美しい街であり続けるためには、この大きな変化に対応できる、持続可能（サステイナブル）なまちづくりが必要です。

数十年後に持続可能で競争力のある美園を実現するためには、これまでとは違う、未来の働き方、暮らし方をいち早く先取りしていく必要があります。どうしたら、ほんとうに持続可能な美園へとみんなで進化できるのか？ その答えを見つけるヒントが「トランジション・マネジメント」にあります。

今回は、「トランジション・マネジメント」の実践と研究で世界的権威のダーク・ローバック教授をオランダ・ロッテルダムから美園にお招きし、オランダの先進事例についてお話を伺い、持続可能な美園に向けた「トランジション」についてみなさんと一緒にワークショップ形式で考えます。

日時 2018 年 6 月 24 日（日） 9:30 - 12:00
(受付開始 9:15)

会場 アーバンデザインセンターみその
(浦和美園駅 西口駅前 オークリーフ 1 階)

募集対象 2050 年に浦和美園と何らかのかかわりが
ありそうな方 (定員 20 名)

参加お申し込み <http://matsuura-lab.org/misono/>
(一次締切 6 月 20 日)



主催



一般社団法人美園タウンマネジメント



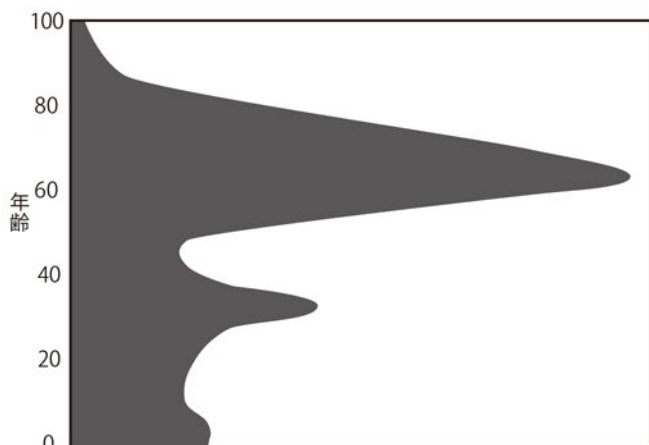
明治大学専門職大学院ガバナンス研究科松浦研究室

協力

美園タウンマネジメント協会・みその都市デザイン協議会

2050年、豊かで持続可能な美園の実現に向けて いまからできることをいっしょに考え、実践してみませんか？

2050年ごろ、美園では住民の高齢化が一気に進む可能性があります。全国では人口減少が加速し、総人口が現在の80%にまで減少すると推計されています。



2050年の美園エリアにおける年齢分布の推計結果

2050年ごろまでに、わたしたちの生活が、大きく変化している可能性があります。たとえば、マイカーの大半が電気自動車で、自動運転を搭載しているかもしれません。また、地球温暖化に伴い、自然災害のリスクが高まると予測されています。このような「時代の波」に美園は、どのように追随するのでしょうか？



プログラム(予定):

- 9:30-9:45 開会挨拶(美園の課題、第1回ワークショップの結果紹介)
アーバンデザインセンターみその[UDCMi] 副センター長 岡本 祐輝
明治大学専門職大学院ガバナンス研究科 教授 松浦 正浩
- 9:45-10:15 トランジション・マネジメントによるオランダのまちづくり
オランダ・トランジション研究所 (※日・英間 逐次通訳あり)
エラスムス大学 教授 ダーク・ローバック
- 10:15-12:00 持続可能な2050年の美園に向けたワークショップ
ローバック教授の指導のもと小グループに分かれ、2050年に美園が持続可能な状態にするため、いま、何ができるかを議論し、実行に移すきっかけをつくります。(※日本語で行います)



ダーク・ローバック教授 Prof. Derk Loorbach

ロッテルダム・エラスムス大学 オランダ・トランジション研究所 所長 兼 社会科学科教授。持続可能な開発(サステイナブル・デベロップメント)のための新しいガバナンスの方法論としてトランジション・マネジメントの方法論を開発した第一人者。100以上の論文等を出版するとともに、政府、民間企業、NGO、研究者などを巻き込んだ研究としてトランジションを実践。欧州内外での講演活動も多数。